

## (県協働部署用) 協働事業評価・報告書

事業名	外国につながる子ども・若者と家族の包括的支援
団体名	特定非営利活動法人 ABC ジャパン
県協働部署名	神奈川県教育局支援部子ども教育支援課 神奈川県教育局指導部高校教育課
事業期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日

## 1 個別事業ごとの実施結果

事業 1	不登校・学齢超過等の子どものためのフリースクール
(1)実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	<p>本事業は、日本語指導が必要な子どもたちや、学齢超過により公に学習の場が与えられていない外国につながる子どもたちを対象として、フリースクールを実施することで、そのような子どもたちが安心して過ごし、また、学習できる環境を提供することを目的としている。</p> <p>これまでも、小・中学校に在籍しているものの日本語の力がほとんどない子どもや、学齢超過で来日したため公教育を受ける機会がない子どもたちに対して、丁寧な日本語指導を行うフリースクール事業を進めてきた。</p> <p>現在は、10名がフリースクールにてきめ細かな指導のもと日本語学習に一生懸命取り組んでいる。そのうち6名が県立高校（定時制課程）に志願し、全員合格した。また、フリースクールでサポートした中学生も2名在籍校に通学することができた。</p> <p>フリースクールに参加している子どもたちは、出身国や地域、来日時期が異なるだけでなく、日本語の運用能力や基礎学力にも差があり、また、置かれている家庭環境も様々である。そのような中、限られたスタッフ数にも関わらず、情報共有を密にし、子どもたちの将来のために尽力し続けたことにより、子どもたちを学校につながるため、希望進路の実現に向けて大きく貢献したことから、本事業が有用であったと評価している。</p> <p>今後も、日本語指導が必要な子どもたちや、学齢超過で公に学習の場を持たない外国につながる子どもたちが安心して学校教育を受け続けられる社会の基盤づくりに貢献できる事業として期待できる。</p>
(2)目標の達成状況	<p>ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。 ( 100 % ) ※1年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。</p> <p>イ) 上記ア)のように判断した理由を記入してください。 本事業におけるフリースクールでのきめ細かい指導（日本語指導・進路指導）によって、支援を必要とする子どもたちが学習する機会を得られている。</p> <p>ウ) この事業の課題と対応策 県内における外国につながる子どもたちが引き続き増加している中、必要とされる支援も多様化してきている。一方で、支援に関する必要な情報がすべての子どもたちに届いていない現状がまだにある。必要な支援を、必要な生徒のもとへ届けられるよう、情報伝達の方策等についても引き続き検討していく。</p>

<b>事業 2</b>	<b>高校進学ガイダンス、大学進学ガイダンス・キャリア支援セミナー、保護者への多言語情報提供</b>
<b>(1)実績・成果に対する評価</b> ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	「外国につながる中学・高校生と若者のための『教育フェア』」を令和4年8月27日(土)の午前・午後1回ずつ実施し、外国につながる中高生、若者、保護者、支援者及び学校の教員等が、それぞれ計60名以上来場した。 日本語の能力が乏しい来日して間もない子どもたちやその保護者にとって、日本の教育制度や進学・就職等に向けた準備などに関する知識・情報を得ることは容易ではなく、このような教育フェアは貴重な機会であった。 そのような子どもたちは、通っている学校において進学・就職等に関する説明を受ける機会があるものの、今回の教育フェアでは、同じような環境にあった先輩たちによる体験の紹介や個別に相談にのってくれるブースなどもあったことから、多くの子どもたちや保護者らにとって、たいへん勇気づけられるものとなった。
<b>(2)目標の達成状況</b>	<b>ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。</b> ( 100 %) ※1年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。 <b>ロ) 上記ア)のように判断した理由を記入してください。</b> 進学や就職、キャリアについて多くの情報を多言語で提供し、多様な分野のブースを出展するなど、子どもたちがより具体的に将来へのビジョンを持てる機会を創出できた。 <b>ウ) この事業の課題と対応策</b> より一層多くの中高生、若者及び保護者への支援を実現するために、教育フェア等の開催に関する情報発信について改善していく必要がある。

<b>事業 3</b>	<b>多言語版キャリア支援・大学進学ガイドブック等発行</b>
<b>(1)実績・成果に対する評価</b> ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	日本語の理解に困難を抱えている子どもたちや保護者に向け、対訳形式で読みやすい「多言語版の小・中学校入学ガイドブック」、「キャリア支援ガイドブック」及び「大学進学ガイドブック」等を作成している。 これらは、ガイダンスやセミナーにおけるテキストとして使用され、今年度は事業2「教育フェア」においても活用した。 現在では、ポルトガル語、中国語、英語、スペイン語及びタガログ語のガイドブックをホームページに掲載したことにより、誰もが活用できる状況になっている。より多くの方々が情報を得ることができ、進路実現につながることができたことから、本事業は有意義なものであった。 なお、これらのガイドブックの活用促進のために活用マニュアルとなる「ガイドブックのガイド」を作成した。これにより、よりわかりやすく子どもたちや保護者が求めている情報を整理された状態で得ることに繋げることができる。
<b>(2)目標の達成状況</b>	<b>ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。</b> ( 90 %) ※1年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。

	<p>ハ) 上記ア) のように判断した理由を記入してください。 「ガイドブックのガイド」の完成時期及び周知宣伝の時期が遅れたため。</p> <p>ウ) この事業の課題と対応策 「ガイドブックのガイド」を含め、「多言語版の小・中学校入学ガイドブック」「キャリア支援ガイドブック」及び「大学進学ガイドブック」等をより多くの人に周知できる方策を検討している。</p>
--	--

(注) 個別事業が2つ以上ある場合は、上の表を複写して記入してください。

## 2 協働事業を継続する上での課題と対応策

令和4年度は、本協働事業最終年度である。

## 3 負担金事業終了後の貴課の考え方

負担金事業終了後も、引き続き社会で不安定な立場に置かれがちな外国につながる子どもたちが安心して学べる場所を保障し、彼らが高校や大学に進学し、将来共に社会を担う仲間として育っていくことをサポートしていきたい。基金事業終了後の事業継続に向けて、役割等の整理をする必要がある。情報提供や広報を継続して行うとともに、必要に応じて助言を行っていく。

## 4 協働事業の評価 (はい・いいえ・どちらともいえない、に該当するものを残してください)

<b>1 協働事業の成果</b>		
(1)	協働することで、単独で事業を行うよりも効果やメリットがありましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	事業の受益者の満足を得ることができたと思いますか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	<p>協働事業の成果だと思ふことがあれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども教育支援課が主催している連絡協議会に参加し、当団体の活動内容や成果物、協働事業について広く周知することができた。</li> <li>外国につながる子どもたちに経済的負担をかけすぎない形で学習の場と居場所を提供することができた。</li> <li>フリースクールに通う子どもたちが県立高等学校等への進学が決まり、学校での教育を受ける機会へとつなげることができた。</li> <li>日本語を母語としない子ども、学校とのつながりのない子どものために、言葉や学習の面だけではなく、日本での生活や進学に向けて、多面的にサポートすることができた。</li> <li>日本語を母語としない子どもたちが同じような環境にいた子どもたちによる体験談を知ることができ、たいへん勇気づけられた。情報の提供にとどまらず、先輩たちとつなげる架け橋の役割も担っている。</li> </ul>	
<b>2 協働事業の協議の状況</b>		
<b>&lt;企画段階&gt;</b>		
(1)	事業計画や目標の立て方について、県と団体とは事前の調整や協議を十分行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	県と団体とは対等な立場で協議を行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
<b>&lt;実施段階&gt;</b>		
(3)	意思の疎通を円滑にし、事業の進捗状況を確認するため、県と団体とは節目ごとにメールや電話でのやりとりや定期的な協議を行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(4)	相手方のフィールド(団体の事務所・活動現場)に足を運び、団体の置かれている状況や立場についての理解に努めましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(5)	必要な情報を団体と共有することができましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(6)	協議についての課題があると思われる場合は、記入してください。	

<b>3 協働事業の役割分担</b>		
(1)	団体との役割分担は適切でしたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	協働事業の実施にあたって、あらかじめ定められた役割を果たすことができましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	役割分担についての課題があると思われる場合は、記入してください。	
<b>4 協働事業全体を通しての評価</b>		
(1)	全体として、県と団体とは対等な立場で協働ができましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	この事業の課題を解決する上で、協働という手法は有効だと思いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	協働事業全体を通じて気づいた点があれば記入してください。	
<b>5 社会的認知の獲得</b>		
(1)	取り組んでいる事業や成果について社会的認知が広がったと思いますか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、どういう点で社会的認知が広がったと思うか理由を記入してください。 子ども教育支援課が毎年主催している連絡協議会において、国際教室担当者、担当指導主事、関係機関等に対して情報提供した。	
<b>6 新たなネットワークの獲得</b>		
(1)	この事業を実施する上で新たなネットワークをつくる（広げる）必要性がありましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）努力を団体と共に行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	(2)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）ことができましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
<b>7 行政の施策等への影響</b>		
(1)	協働事業の実施により、県職員のボランティア団体等に対する認識の変化や行政の施策等の改善のヒントにつながるようなことがありましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、具体的に変化や影響があったと思われることがあれば記入してください。 外国につながる子どもたちと家族の状況や課題を、協働事業として実施し様々な形で発信していくことで、課題について認識してもらえようになったと考える。	
<b>8 費用対効果</b>		
(1)	事業の効果から見て、要したコストは適切だと思いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	(1)で「いいえ」を選んだ場合、その理由と、今後の対応策を記入してください。	